

日本列島 古墳の旅

世界遺産に登録された「^{も ず}百舌鳥・^{ふるいち こ ふんぐん}古市古墳群」の中でも有名なものは、天皇や皇族の陵墓として指定されているため、古墳そのものは立ち入り禁止となっています。しかし国内には、登ったり中に入ることでできるものもあります。その中から、今回は岡山県古墳を紹介します。



日本で最も大きな前方後円墳は、今回世界遺産に登録された仁徳天皇陵（大仙陵古墳）で、全長約486m、高さ約35mあります。岡山では造山古墳が最も大きく全長約360mで、全国でも第4位の大きさです。百舌鳥古墳群のある大和地方には及びませんが、岡山にも大きな権力を持った支配者（豪族）が現れていたことを示しています。県内では、他に^{つくりやま}作山古墳が全長約286mで全国第9位、^{りょうこうざん}両宮山古墳が全長約206m、全国で40位前後となっています。このように岡山は、全国的に見ても大きな古墳がたくさん作られた地域で、大和地方に次いで、大きな力をもっていたと考えられます。岡山平野の豊かな農業生産力や、瀬戸内海の海上交通において重要な場所にあったことなどから、大きく発展したのでしょう。



造山古墳

造山古墳は岡山市北区新庄下にある国指定の史跡です。墳丘に立ち入りできる古墳としては全国最大の規模になります。5世紀前半に作られ、名前のとおり見た目はまるで山ようですが、元々あった丘を削り、大量の土を盛って作られたと考えられます。古墳は三段になっており、斜面には石を敷き詰め、作られた当時は、円筒形の埴輪や家や盾などの形をした埴輪をたくさん並べていました。さらに古墳のまわりには堀がめぐらされていたようです。吉備地方（岡山県から広島県東部）を治めた非常に有力な豪族の墓と考えられ、付随する円墳からは鏡、砥石、鈴、多量の鉄器などが出土していますが、その多くは謎に包まれています。



こうもり塚古墳

横穴式石室を見学できる古墳もあります。こうもり塚古墳の石室は19.4mあり、岡山県下最大、全国でも有数の大型石室です。古墳の全長は約100m、石室の中には家形の石棺がおさめられており、非常に大きな力をもった豪族が葬られていると考えられます。



石室

古墳は貴重な文化遺産です。周辺にあるものを動かしたり、持ち帰ったりはもちろんですが、個人所有地の古墳もあるので、立ち入り禁止の場所には入らないようにする等、ルールは守って見学しましょう。見学に行くなら、石室の観察用に懐中電灯があると便利です。

ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番1号
TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184
URL <http://www.kokudo.or.jp>



百舌鳥・古市古墳群、世界遺産に登録

今回のニュースレターは、まるごと「^{も ず}百舌鳥・^{ふるいちこふんぐん}古市古墳群」特集としてお届けします。

まず、百舌鳥・古市古墳群の概要をご紹介します。2019年6月30日～7月10日にアゼルバイジャンのパクーで開催された第43回世界遺産委員会で登録が決まった百舌鳥・古市古墳群は、2013年から5年連続で国内の世界文化遺産推薦枠（1枠/年間）に立候補を行い、2017年によりやく推薦枠を勝ち取りました。構成資産は大阪府の堺市、藤井寺市、羽曳野市にまたがる45件49基の古墳群で、百舌鳥エリアに23基、古市エリア26基の古墳があり、大阪府としては初の世界遺産となります。

遺産概要

古墳時代の最盛期であった4世紀後半から5世紀後半にかけて、百舌鳥・古市エリアは当時の政治・文化の中心地のひとつとされ、古墳群は、大陸に向かう航路の発着点であった大阪湾に接する平野上に築造されました。世界で類を見ない、長さ500メートル近くに達する前方後円墳から、20メートル台の墳墓まで、様々な古墳により構成されています。墳丘は葬送儀礼の舞台であり、幾何学的にデザインされ、埴輪などで外観が飾り立てられています。百舌鳥・古市古墳群は、土製建造物のたぐいまれな技術的到達点を表し、墳墓によって権力を象徴した日本列島の人々の歴史を物語る顕著な物証とされています。

見学方法

ここでは、百舌鳥古墳群の中でも、日本最大の^{にんとくんのうりょう}仁徳天皇陵古墳についてみてみましょう。

JR阪和線百舌鳥駅を降りると線路をはさむ陸橋があり、そこに登ると仁徳天皇陵の大きさを実感できます。広大な緑の森が見渡せます。陸橋を渡らずに戻り、西へ10分ほど歩くと仁徳天皇陵の拝所へ着きます。10分歩いても古墳の短辺の半分にしかなりません。仁徳天皇陵墳丘は全長約486mで三重の濠に囲まれており、一周するコース（約3km）も整備されています。

仁徳天皇陵の拝所は古墳前方部の前側中央にあり、厳かな雰囲気です。5世紀中ごろ築造された日本最大の^{だいせんりょうこふん}前方後円墳は、クフ王ピラミッド、秦始皇帝陵と並ぶ世界3大墳墓のひとつとされています。天皇名を冠してではなく「大山古墳」あるいは「大仙陵古墳」とも呼ばれています。

仁徳天皇陵の南側は大仙公園となっています。芝生広場・図書館・博物館・日本庭園等があり、博物館では百舌鳥古墳群疑似体験ツアーが実施され、バーチャルリアリティ（VR）技術で百舌鳥古墳群を上空から眺めることができます。

仁徳天皇陵をめぐった後は、堺市役所展望ロビーに行ってみましょう。無料で地上21階、高さ80mからの展望が楽しめます。少し遠いですが仁徳天皇陵古墳等が望め、市街地の中に古墳がオアシスのように点在する様子が分かります。



仁徳天皇陵（大山古墳）

百舌鳥古墳群周辺の地名

百舌鳥古墳群に含まれる古墳の中でも特に大きい「大仙陵古墳(仁徳天皇陵)」^{だいせんりょう}「上石津ミサンザイ古墳(履中天皇陵)」^{かみいしづ}は堺市堺区・北区・西区の境目に位置していますが、上記の百舌鳥の付く地名はこの境目の周辺に存在しています。

「百舌鳥」という地名自体は奈良時代からみられるそうですが、その由来はよくわかっていません。ただ、日本書紀には「仁徳天皇陵の造営時に現れた鹿の耳から百舌鳥が飛び出してきた」という話があります。

百舌鳥(もず)の付く地名		
堺区	百舌鳥夕雲町(もずせきうんちょう)	1～3丁
北区	中百舌鳥町(なかもずちょう)	1～6丁
北区	百舌鳥赤畑町(もずあかはたちょう)	1～5丁
北区	百舌鳥梅北町(もずうめきたちょう)	1～5丁
北区	百舌鳥梅町(もずうめまち)	1～3丁
北区	百舌鳥西之町(もずにしのちょう)	1～3丁
北区	百舌鳥本町(もずほんまち)	1～3丁
北区	百舌鳥陵南町(もずりょうなんちょう)	1～3丁

堺市内の「丁」と「丁目」

なお、堺市内でも美原区だけは「丁」ではなく「丁目」が存在しますが、ここは平成の大合併時に南河内郡美原町が堺市へ編入合併(2005年2月)し、後に区の一つとなったものだからです。

「全国市町村マップ」では、日本にある世界遺産を写真付きで紹介しており、令和2年版には今回ご紹介した「百舌鳥・古市古墳群」が追加されています。

第33回 地図地理検定のご案内 主催 (一財) 日本地図センター、(公財) 国土地理院

前回の問題は
ココでチェック!

在後期

	地図地理検定（一般）	地図地理検定（専門）	一般・専門の併願
基本受検料	3,000円	4,000円	5,000円
リピーター割＊ 学割**	2,000円	3,000円	4,000円

*3 団体申込特典があります。詳しくは地図地理検定ホームページをご覧ください。

地図地理クイズ! (第31回地図地理検定より出題)

① ♪ 山の畑の桑の実を
小籠につんだは まぼろしか ♪

② ♪ 菜の花畠に入日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし ♪

③ ♪ まつぼっくりがあったとさ
高いお山にあったとさ ♪

④ ♪ 夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る ♪

【正解】④【解説】選択肢の重説が描く風景は「桑の実」が出ているからには桑畑を、②からは菜の花畑（重説中では「菜の花島」）を連想できます。かつては桑畑の地図記号が存在しましたが、現在の多色判の地形図からには使用されなくなっています。したがって①②③、①②③④、②③④、①②③④⑤のいずれも、桑畑の地図記号で表されることになりません。⑤のまきつくりは、松の木の美ですから、針葉樹林の地図記号が連想されます。④は菜摘みの歌です。よって桑畑を連想することができ、かつての日本では、桑は蚕の餌として、桑の花は菜種油の原料として盛んに栽培されており、重説①②で歌われたような風景が各地に見られていたが、今ではほとんど栽培されていません。菜の花については、大規模な畑が北海道や東北地方の一部に残っていますが、出題された地形図のような、東海道新幹線が通っている地域には該当しません。よって①、②は選択肢から除外できます。また、●で隠されている地図記号の配置の密度から、耕地に関する地図記号だと判断できます。未耕地である針葉樹林の地図記号の場合は、より間隔を空けて描かれます。したがって③も除外できます。残る④が正解で、茶畑の地図記号が隠されています。出題された地形図を見ると、「東海道新幹線」の注記があり（もう少し掲載範囲を広げれば静岡空港の注記もあります）、図名が「島田」となっているので、静岡県島田市の周辺であると判断できます。そこから茶畑を連想することが可能です。